

2. 火山の概況 (平成 15 年 1 月 30 日 ~ 平成 15 年 2 月 5 日)

三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では孤立型微動の多い状態が継続した。諏訪之瀬島では噴火があった。

また、期間外の 6 日、浅間山では小規模な噴火があった。

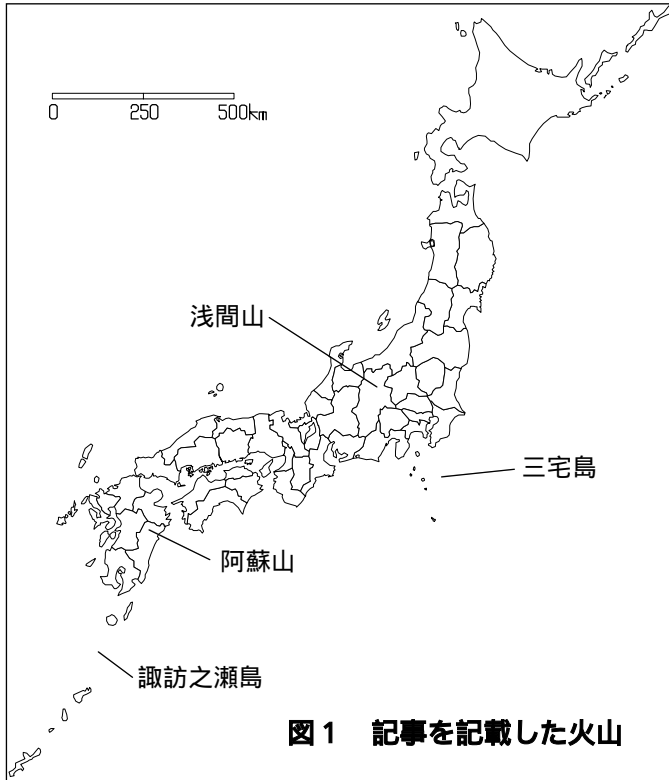


図 1 記事を記載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	岩手山	浅間山	三宅島	阿蘇山	桜島	諏訪之瀬島
7	2/ 6- 2/12						
6	1/30- 2/ 5						
5	1/23- 1/29						
4	1/16- 1/22						
3	1/ 9- 1/15						
2	1/ 2- 1/ 8						

注 1 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に变化があった火山
- : 前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[]内の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ等を示す。

浅間山 [噴煙・降灰・微動] (期間外の 6 日の記述を含む)

1 日以降噴煙がやや多い状態となり、白色の噴煙が最高で火口縁上 500m (1 月 30 日、2 月 4 日) まで上がっていたが、6 日 (期間外) 12 時頃、少量の有色噴煙 (灰白色) が火口縁上 300m まで上がり、南東に流れているのが確認された (図 2)。有色噴煙の噴出は数分後には収まった。長野県警察本部のヘリコプターによる調査で、山頂付近で少量の降灰が確認された。また、気象庁職員が調査したところでは、山腹の道路や居住地では降灰は確認されなかった。

地震や微動の活動は、3 日 15 時台に地震が 23 回と一時的に多発して日回数が 43 回となったこと及び 6 日 12 時頃の噴火に伴い振幅の小さな微動が発生したことの他は、地震の日回数が 11~31 回で推移し、特段の活動の活発化はみられなかった。



図 2 浅間山 2 月 6 日 12 時頃に発生した小規模噴火の写真 (浅間山の南南東約 8 km の軽井沢測候所より撮影。左は噴火直前、右は噴火直後の噴煙の状況。右では灰白色の噴煙が高さ 300 m まで上がり南東に流れているのが見える。)

GPS 及び傾斜計による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

浅間山での小規模な噴火は 1990 年 7 月 20 日以来である。なお、噴火に伴う微動の振幅や降灰の状況から、噴火の規模は前回と比べてより小さいものとみられる

三宅島 [地震・噴煙]

振幅の小さいやや低周波地震が、1 日 16 時台に 7 回、3 日 18 時台に 6 回、3 日 19 時台に 5 回と一時的にまとまって発生したが、震度 1 以上を観測した地震、振幅のやや大きな低周波地震、微動は発生しておらず、地震及び微動の活動は全体的に低調であった。

白色噴煙は連続的に噴出しており最高は火口縁上 300m(1、3、4 日)であった(前期間 1,000m)。

GPS 観測では、収縮の傾向にあった三宅島の地殻変動は収縮率が小さくなり、静穏期にもみられるわずかな膨張に転じている。

阿蘇山 [微動]

孤立型微動の多い状態が継続している。今期間の発生回数は 1 日当たり 167~196 回、合計は 1,232 回(前期間 1,770 回)であった(図 3)。

地震の回数は少ない状態が続き、1 日当たり 1~4 回で、合計は 20 回であった(前期間 39 回)。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 300m(1 月 31 日、2 月 1、3 日)であった(前期間 500m)。

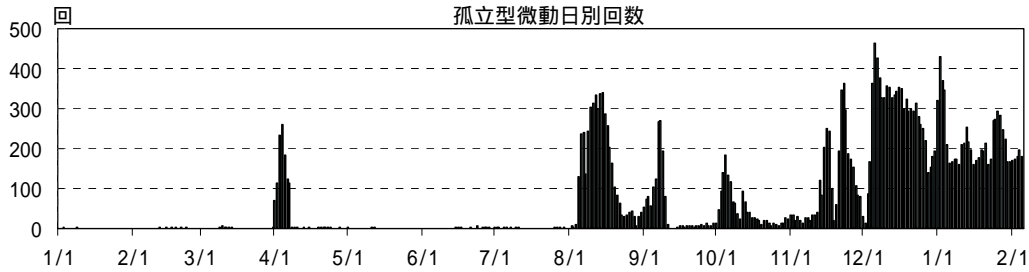


図 3 阿蘇山 孤立型微動 日別回数
(2002 年 1 月 1 日 ~ 2003 年 2 月 5 日)

諏訪之瀬島 [噴煙・鳴動・微動・地震]

期間中、爆発的噴火は発生しなかったが(前期間 2 回)、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、1 月 30 日、2 月 5 日に火山灰の噴出が確認された。また、島内の集落(御岳の南南西約 4 km)で、5 日に鳴動が聞こえた。降灰は確認されなかった。

噴火活動の活発化を示す微動の発生状況は、連続微動が 1 日 12 時 40 分~2 日 00 時 05 分に発生した。また、3 日 00 時~03 時に地震がやや増加し、この間の地震回数は 59 回となった。それ以外は、地震活動は低調であった。

表 2 火山情報発表状況(本文中に期間外の記載がある火山については、その期間の情報を含む)

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 55 号 (1 日 2 回発表)	30 日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第 68 号	5 日 16:30	
浅間山	火山観測情報第 1 号	6 日 15:45	少量の有色噴煙を観測。 長野県警がヘリコプターで山頂付近に少量の降灰を確認。 山腹の道路・居住地には降灰なし。
	火山観測情報第 2 号	6 日 18:40	
阿蘇山	火山観測情報第 5 号	3 日 10:30	孤立型微動の多い状態が継続、中岳第一火口の噴煙活動・湯だまりの状態に大きな変化なし

「火山の概況」に関する解説

「火山の概況」では、噴火や定常状態から変化があった火山及び火山活動に関連する表面現象があった火山について、陸上火山については、各気象官署が収集した情報により、海底火山については、海上保安庁及び海上自衛隊の観測報告に基づき、その概況を記述する。また、時刻は日本標準時を使用する。

「火山の概況」で用いる用語は次のとおりである。

- 噴火**： 火口から火山灰等の固形物や溶岩を火口付近の外へ放出する現象。但し、噴火活動が活発な桜島では、火山灰を含む噴煙の高さが火口縁上概ね 1,000m 以上となった場合に噴火としている。
- 爆発**： 噴火の一形式で爆発的噴火の略。地下の高温、高圧源での内圧が増大して起こり、音響とともにガス、水蒸気、岩石等を放出し、空振を伴う現象。時に火口や山体を破壊することもある。
- 火山性地震**： 火山体または火山付近を震源とする地震。「火山の概況」本文中の地震とは、主に火山性地震をさす。
- 火山性微動**： マグマや熱水の移動等に関連して発生する地面の連続した震動。
- 日回数**： 現象の 1 日の回数。例：火山性地震の日回数は 20 回
- モホ面**： 地殻とマントルの境界の不連続面。発見者の名前にちなんで名付けられたモホロビッチ不連続面の略。
- 鳴動**： 火口またはその付近に音源を持つ連続的な音響で、特に火山活動に関連して起こるもの。時には震動を伴うものもある。
- 空振**： 噴火などにより火口から物質が放出される際に発生した衝撃波などが、空気中を伝わり観測される音波。爆発的な噴火では大きな空振が観測される。人間が聞かない低周波の音波まで観測できる「空振計」と呼ばれる測器で観測する。
- 階級と解説** 大：窓ガラスなどが激しく振動し、時には破損することもある程度
中：だれにでも感じる程度
小：注意深くしていると感じる程度
- 噴石**： 噴火の際に噴出される溶岩または火山体を構成する岩石の破片。
- 降灰**： 火山灰、火山砂、火山礫が降下する現象。
- 火山雷**： 火山噴火の際、噴煙中またはその周辺で発生する雷。
- 火映**： 火口内の火山ガスが燃焼した場合や、赤熱溶岩が噴出した場合に、これらが噴煙や雲に映って明るく見える現象。高感度カメラにより初めて捉えられる程度の弱い現象については、「微弱な火映現象」と表現して、従来の肉眼で捉えられる火映と区別している。
- 火炎**： 火口から出る可燃性ガスが燃える現象。
- 火山昇華物**： 火山の噴気孔の周囲に、噴気中の成分が固化し付着したもの。黄色や白色のものなどがある。
- 火柱**： 噴火の際、火山噴出物が赤熱状態で噴出されることにより、特に夜間、火口上に火の柱が立ったように見える現象。
- 火砕流**： 高温の岩片と気体が、主に重力によって駆動され、一団となって高速に地表を流下する現象。
- 溶岩ドーム**： 粘性の高い溶岩が噴出したため、遠くに流れることができずドーム状の丘となったもの。